

早稲田法學

第95巻 第1号

2019

論 説

- 必要的共犯（対向犯）について 松 澤 伸（1）
- 継続犯における故意の存在時期
——東京高裁平成27年8月12日判決（判時2317号136頁）を契機として—— 松 原 芳 博（31）
芥 川 正 洋（51）
- 事後強盗罪の処罰根拠と成立範囲
フランス株式会社法における「ソシエテ契約（contrat de société）」概念の意義（1） 石 川 真 衣（125）
- 同意殺人・同意傷害とパターンリズム
——Uwe Murmann の見解を手がかりに—— 菊 地 一 樹（165）
- 特別養子縁組における実親の位置付けと縁組同意に関する考察（1）
——ドイツ未成年養子制度の運用を手掛かりに—— 喜 友 名 菜 織（197）
- 果実概念の形成：「女奴隷の子（partus ancillae）」は果実に含まれるのか？
——果実の帰属と使用取得の可否を中心に—— 清 水 悠（241）

判例評釈

- 〔民事手続法判例研究〕 抵当権の被担保債権が免責許可決定の効力を受けた場合における当該抵当権それ自体の消滅時効の進行
早稲田大学民事手続判例研究会 加 藤 甲 斐 斗（301）
- 〔外国刑事判例研究〕 ドイツ刑法266条 a における使用者性（Arbeitgebergesellschaft）についての錯誤 小 池 直 希（313）
- 〔憲法判例研究〕 性同一性障害者特例法における生殖能力喪失要件の合憲性 春 山 習（323）
- 〔刑事判例研究〕 強制わいせつ・強姦の犯行状況等を隠し撮りしたデジタルビデオカセットの没収
早稲田大学刑事法学会 桑 島 翠（341）
- 〔刑事判例研究〕 訴訟法上の事実に関する新証拠の
刑訴法435条 6 号該当性 早稲田大学刑事法学会 佐 藤 友 幸（353）
- 〔刑事判例研究〕 身柄拘束中の犯人との口裏合わせに基づいた参考人の虚偽供述と犯人隠避罪の成否
早稲田大学刑事法学会 永 井 紹 裕（363）

翻 訳

- ゲルト・ブリュッゲマイアー「民事不法行為法の基本構造（1）」
——英米法を考慮に入れたドイツ・フランス・日本の分析——
瀬川信久・藤原正則・林 誠司・山本周平 訳（373）
- 陳小君「中国における農地「三権」分置政策の発展および農業社会への影響」
文 元春 訳（403）

早稲田大学法学会